

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	長く なっている やや良く なっている	コンビニ（店 長）	販売量の動き	・販売量、顧客数共に3か月前より良く、前年比110%と上昇している。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・来店数が増え、物を見て購入する頻度が非常に高くなっている。以前は、見ているだけで買うのに時間を要していたが、実際の購入までの時間が短くなっている。
		一般小売店〔精 肉〕（店員）	単価の動き	・特にない。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・雨の日サービス、物産催事・工芸催事の開催、ボーナス支給開始に合わせたDM催事開催、クリアランス早期開始の相乗効果で雨の影響を跳ね返す来店客数だった。また、宝飾・時計・バッグの現品限りお買得市を含め、高額の時計・呉服への関心が高く、ショッピングクレジットでの購入も増加し、抑制されてきた客の購買意欲がやや上向きになってきた。
		百貨店（営業政 策担当）	販売量の動き	・今月は入店客・客単価ともプラスで推移している。特に空梅雨の影響で、中元ギフト先行受注が好調である。一般商品の動きは婦人シーズン雑貨など季節ものが好調で、平均買上点数のプラスに結びついている。
		百貨店（営業統 括）	単価の動き	・宝飾、時計、高級バッグ等の高単価品の動きが良くなっている。
		スーパー（店 長）	競争相手の様子	・売上は前年比104.5～105%となった。昨年は、競合店開店の影響で前年比103～104%程度だったが、1年を経て競合店の開店前の状態に戻り、景気は上向いている状況である。
		スーパー（総務 担当）	それ以外	・衣料品などは、気温変化による影響はあるものの、全体的に前年を上回る売上を推移している。
		スーパー（経理 担当）	販売量の動き	・梅雨とはいえ雨が比較的少なく、安定した消費が続いている。また、円安の影響もまだ出ていない。
		衣料品専門店 （チーフ）	お客様の様子	・今月の前半はやや厳しい状況であったが、後半は、一般企業のボーナス支給後で、いつもより購買意欲が強い客の動向が見受けられた。
		家電量販店（広 報・IR担当）	販売量の動き	・不調が続いていたAV関連商品も底を打ちつつある。ボーナス商戦の動きも早い。
		その他小売の動 向を把握できる 者〔土産卸売〕 （従業員）	販売量の動き	・5月の販売量は3か月前の3倍と多かったが、6月も4月に引き続き前年比を5%程上回った。
		その他小売 〔ショッピング センター〕（広 報担当）	来客数の動き	・季節商材や母の日、父の日などの年中行事で、昨年を上回る実績である。購入する商品をしっかり見極めた行動がみられる。また、消費税増税を見据えた動きも顕著にみられる。エアコンや液晶テレビなど高単価の耐久財が好調である。気温の上昇とともに、夏物衣料、涼感寝具、扇風機なども良い動きである。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・宿泊客は昨年に比べ落ち込んでいるが、レストラン・宴会等は順調に伸びている。
		都市型ホテル （総支配人）	来客数の動き	・宿泊数が増えている。
		都市型ホテル （副支配人）	販売量の動き	・インターネット等を中心に、1月から継続してなだらかに右肩上がりで客が増えている。特に個人の客が増えている。
		その他サービス の動向を把握で きる者〔介護 サービス〕（管 理担当）	来客数の動き	・例年通り10月までは季節要因もあり顧客増が見込めるとともに、全体的に市場も拡大傾向にある。
		住宅販売会社 （代表）	来客数の動き	・今年に入って来客数は増加している。新築、リフォーム共に増加している。
変わらない		商店街（代表 者）	お客様の様子	・安定した天候により夏物衣料の動きが順調である。高額商品が特別に売れているわけではないが販売量は順調に推移している。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・例年、梅雨時期になると商店街の来客数が減ってくる。販売単価も上昇せず、大変良くない状況が続いている。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・来客数、販売高共に3か月前と比べて大体横ばい状態なので、あまりは変わらないと判断する。

商店街（代表者）	お客様の様子	・当商店街は、魚や野菜、肉の生鮮3品が多く集まっている。商店街全体や個々の店舗で空調設備がなく、特に鮮魚は、早く商品を片付けないと鮮度が落ちるために店の回転が速くなっている。
一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・し好品である果物関係の伸びがかなり悪い。また、宮崎から発送の完熟マンゴーは、昨年と比べて8～9割位の相場でかなり厳しい状況にある。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・父の日のギフトモチベーションは前年レベルを確保することができた。しかし、その後のクリアランス前の動きが鈍い。店全体では特選プティックは好調だが、比較的高額な価格帯ベターゾーンから普及価格帯のボリュームゾーンを対象とする客はまだ本当に必要なものしか購買しない。
百貨店（総務担当）	販売量の動き	・低迷していた来店客数減が底を打ち、アパレルを中心に動きがよくなり売上が回復基調となった。
百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・6月上旬は梅雨入り後も好天が続き、季節商材が堅調に売れた。また、雨が少し続く傘やレインシューズなどの雨具に顕著な反応が現れる。先の流行や季節商材を先取りする動きは少ないが、季節の変化に非常に敏感な動きが続く。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・空梅雨の影響で夏物が例年より早まっている動きがあったものの、梅雨らしい日が連続すると、途端に動きが鈍った。客の購買行動は時期が動くだけで、絶対量は減少しているようだ。
百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・3か月前と比べて、売上は、管轄する店舗それぞれが100%を超え、客単価は、非食品が101.6%、食品が101.5%と前年実績を上回っている。特に絵画の動きが132%と良く、今年の2、3月以降ずっと良い状況が続いている。
スーパー（店長）	単価の動き	・消費者の低価格志向は相変わらず根強いものがあり、競合店もそれに合わせて販促をかけてくる。若干売上は回復しているものの、利益を圧迫している。
スーパー（店長）	単価の動き	・商品の単価は上がっているものの、客の買上単価は横ばいの状況である。買上点数が若干低くなっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・高額品であるエアコン、扇風機等の季節家電や、ノンフライヤーやふとん専用ダニクリーナー等の憧れ商品がセール価格ではあるが好調に売れている。また食品は客数減だが、買上点数が伸びている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・食品は野菜の相場が引き続き非常に安値で動いている。店頭での売価も昨年比94%となっており、売上に影響している。海産物も、漁業環境や自然保護問題などで、漁獲量が少なくなったことも売上に影響している。また、食品の値上がりもじわりじわり影響しているとみている。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・実質的には大きな変化はない。取扱商品のうち輸入商品に関しては、為替の影響から販売単価の上昇を避けられず、当該関係商品の購買状況は鈍化した。それ以外の商品は、商品単価が安定したため、全体として変化はない。
スーパー（業務担当）	お客様の様子	・季節商材の中心である飲料や半袖衣料は堅調な動きだが、客単価や売上点数は前年並みで推移している。中元商戦も目立った特徴はなく、大きなプラス要因が見当たらない。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・常連客との会話で、景気回復を実感している客はほとんどいないと感じる。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・梅雨に入り寒暖の差があり、夏物商品の売行きが悪く、思うように売上が伸びていない。アベノミクス効果は全く地方にはみられず、客の財布のひもも固く、客単価が上がりきれない状況である。厳しい状況が今も続いている。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・販売量は良くもなく悪くもなく横ばいだ。全体的に量販店で落とした分をコンビニエンスストアがカバーしている状況で、何とか前年並みという状況で推移している。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・客数が伸びている割には客単価が前年よりも落ちている。理由は、1杯ドリップコーヒーの販売により客数が増えているが、単品買いも多く、単価が100円なので客単価で前年比割れしているからだ。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・客の財布のひもは固く、来客はあるが、見るだけの客がほとんどである。

衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・固定客が多いため、来店する客にそう変化はみられない。商品を勧めるが、その気になって購入する客は以前よりも少なくなっている。
衣料品専門店 (店員)	販売量の動き	・売上も来客数も前年並みだった。この3か月は前年並みが続いている。顧客の来店は順調だが、常連以外のフリー客の売上は減ってきている。
衣料品専門店 (取締役)	お客様の様子	・3か月前の3月はまだ肌寒く、春物とはいえども気候に左右されていた。6月は実需期として商材がたくさんある。ようやく季節も良くなっていくが、セール待ちの客はかなりシビアで、月後半は買い控えも見られる。
家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・エアコンに動きが出てきたが、他の商品は相変わらず低迷しており全体的には前年割れが続いている。
住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・毎月行っているキャンペーンは、今月は低調ながら前年同期比を上回った。反面、新規部門が今月は良くなく、トータルでは横ばいである。回復傾向にあった客単価が今月は低い。
住関連専門店 (店長)	販売量の動き	・今月は梅雨ということもあり、来客数が少ない。必要な時に必要な物だけを買うに来るといった状況が続いている。
その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	販売量の動き	・6月という梅雨の時期もあり、客の来店回数も昨年に比べるとやや横ばいのような状態になる。客単価自体は下がる傾向にある。
その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	お客様の様子	・燃料油の販売量及びカーケア商品の販売額は、前年と比較しても増減はさほどない。来店された顧客の様子をうかがうと、賞与が支給されたが、昨年と比較すると微増という話を聞く。今後、支給が予定されている顧客からは、昨年並みのようだ聞く。
高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・来客数が横ばいである。
高級レストラン (専務)	来客数の動き	・天候が悪く雨が多くなってきた。これから気温が上がるとクーラーがないところにあまり人が出なくなり、客足がどうしても伸びない。
一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・努力を重ね、広告も3か月前より今月のほうがたくさん使い、広告費を振りしぼっているにもかかわらず、3か月前と何も変わらない。
居酒屋(経営者)	来客数の動き	・平日の客の入りにはむらがある。週末も常に忙しいというほどの客入りではない。
都市型ホテル (販売担当)	競争相手の様子	・まわりの客の声、同業者からもあまり景気の良い話は聞かない。会社も電気料金などが上がり経費負担がそのまま社員の締めつけになりそうだ。
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・国内、海外共に動きは低調である。ビジネス出張も4月以降低価格の航空運賃が拡大し、単価が下がる傾向にある。
タクシー運転手	お客様の様子	・今月は例年になくゴルフ客が少なく、宿泊客も団体ばかりでタクシー利用が少なかった。
タクシー運転手	来客数の動き	・乗客数、売上自体はほぼ変わっていない。しかし、タクシーの場合、天気、季節変動に左右される部分がかかり多く、週の前半は極力利用を押しえて、週末に利用する頻度が高くなる傾向が強くなっている。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は、日中に車を傘代わりに利用する客が大変多かった。予約状況も動きが良かった。ただ夜の繁華街が寂しかった。
通信会社(総務局)	販売量の動き	・新規加入数、解約件数の差は微増であり特に変化はみられない。
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・弊社で販売している端末機器において、他社で扱っているものが弊社にはないこともあって販売数が増えない状況にある。
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・販売量に大きな変動がない。
通信会社(業務担当)	販売量の動き	・6月も5月同様、夏モデル商品の人気が続く。特に買換え需要が好調である。人気商品の品薄感はあるものの、平日は厳しいが週末は販売台数が昨年より増えている。
ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・5月末から梅雨入りしたが、陽性の梅雨と報じられ、雨の降った日と降らない日は半々で、過去2年の連日降り続く梅雨とは異なっている。6月の客入りは過去5年平均を上回っているが、景気回復による増客ではなく、天候に見合った客入りである。
音楽教室(管理担当)	来客数の動き	・今の時期は特別に生徒の動きがないのであまり変わらない。

		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・不動産業の分譲事業は、戸建とマンションをやっているが、マンションは立地的に高条件の物件が売れ筋で売上が進んでいる。立地が少しでも悪いと客も来店しないという状況で、売れる物件と売れない物件が二分されている。戸建のほうは若干落ち込んでいる。
やや悪く なっている		商店街(代表者)	来客数の動き	・購買目的で来店した客が購入する確率は以前より増しているが、今月に入り来客数が減少している。
		一般小売店〔生花〕(経営者)	販売量の動き	・母の日が終わって、花屋は卒業式や入学式シーズン等春先の需要がある時期よりは落ちるのは当然であるが、新しい販売先を見つけないとこれから先厳しくなる。
		一般小売店〔茶〕(販売・事務)	来客数の動き	・曇りが影響し来客数が悪く、前年と比較すると減少である。天候だけが原因ではないが、消費者の財布のひもは固く、1品当たりの単価も低い。
		百貨店(企画)	販売量の動き	・アクセサリー、帽子、靴、バッグなどの身の回り品は好調であるが、ミセス婦人服のボリューム商品が苦戦している。買上商品単価も今月は昨年比を下回っている。
		スーパー(経営者)	単価の動き	・全体的に選挙前のためか動きが鈍い。
		衣料品専門店(総務担当)	お客様の様子	・3月は非常に景況が改善された時期ということもあるが、3か月前と比べて、今月は特に、セール待ちでボリュームゾーンからベターゾーンの客の動きが悪くなっている。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・ボーナスを当てにして何かを買おうという客が最近減ってきている。壊れたら買うという客が多い。
		乗用車販売店(総務担当)	販売量の動き	・エコカー、特にハイブリットカーは順調に販売台数を確保しているが、その他の車種で販売が伸びない。前年比、計画比ともに最近では低調である。
		住関連専門店(店長)	それ以外	・前半は、集客減に伴い、購入単価・率も減っている。セールの買い控えが影響している。22日以降、昨年以上の動きで徐々に上向き傾向である。
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・5月末当店では法人関係の予約が多かったが、6月に入った途端ぱったり止まり、6月の初旬～中旬はあまり良くなかった。後半にかけて株主総会等が入ってきたが、かなり厳しい月であった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は先月、先々月と比べて客の動きが非常に悪い。先月の終わりから今月にかけて株価や為替が不安定な動きをしているという心理的な面があるかもしれない。
		通信会社(販売部)	販売量の動き	・先月までは好調であったが、今月に入った途端、急激に来客数・販売数が落ちた。
		ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・今月は入場者のなかでも特に県外客が前年を大きく下回っており、非常に厳しい状況が続いた。また、地元客にしても梅雨ということもあるが、いつでもゴルフができる状態もあり、キャンセルが多く、厳しい状況で推移している。
		美容室(経営者)	販売量の動き	・春から夏に向かっている売上は若干下がる人が多い。これからボーナスシーズンになって上向きを期待していたが、いまいち景気が回復していない。もう少し末端に届くような景気政策にしてほしい。
	美容室(店長)	単価の動き	・単価が上がらないように節約している傾向がある。	
	設計事務所(所長)	来客数の動き	・特にない。	
悪く なっている		商店街(代表者)	来客数の動き	・弊社の商品は単価が高く、景気が悪いと消費者はディスカウントショップで購入する。弊社が単価を落としても薄利になるため、価格競争では大手には到底及ばない。
		一般小売店〔鮮魚〕(店員)	来客数の動き	・ここ数か月同じ状況が続いている。1日に数人という時もある。全くお手上げである。
		その他専門店〔書籍〕(地区支配人)	販売量の動き	・店頭売上が一向に回復しない。客数も落ち込み、どうやって定価品を伸ばしていくかが課題である。サブライムの商材にも取り組んでいるものの、なかなか大きな実績は得られないのが現状である。
企業 動向 関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている	農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・6月は予想通りあまり良い動きではなかった。鶏肉相場は厳しい価格であり、加工メーカー向けの原料肉が依然として引き合いが弱い状況である。ただ、得意先であるスーパー向け、居酒屋向けなどはあまり落ち込みがみられない。

	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新規物件の受注量が多くなっている。円安の影響もあり、海外生産するメリットが少なくなっている。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・1件当たりの家具受注金額が上がってきた。3か月前前は平均受注額18万円だったものが20万円近くになっている。高額品も少しずつ販売につながるようになってきた。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車用の部品及びユニットの組立に関する設備の受注が好調である。しかし、他の業界の引き合いや見積りはほとんど聞かない。
	精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注先からの生産要求が、かなり増えてきている。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の発注も増加し、落札業者の偏りもなく多くの業者がまんべんなく受注しているようだ。今の時期だけではなく年間を通して発注があることが景気回復につながる。
	通信業（経理担当）	取引先の様子	・このところ各社の決算報告が相次いでいるが、昨年と比べて好転している。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・円安や電力料金の上昇等によるコストアップ要因はあるものの、公共工事や住宅投資が大幅に増加して、関連企業の設備がフル稼働している取引先がみられる。生産水準も自動車等を中心に徐々に回復傾向にある。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・マインド先行なのか、取引先との会話のなかで、前向きな話題も増えたようだ。
	不動産業	取引先の様子	・不動産売買の動きが良くなっている。戸建やテナントビル等の売買が動いている。
	新聞社（広告）（担当者）	受注量や販売量の動き	・「通信販売」の出稿が伸び悩み、売上は前年の80%台と苦戦しているが、昨年出稿がなかった「住宅設備」の広告が好調なのに加えて、「化粧品（通販）」や「飲料」、学校関連の広告も前年を超え、全体でも昨年を超える102.5%となった。
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・大手の再編成が始まり、新規の出店も増えてきた。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・問い合わせ件数や受注量が増えてきている。
変わらない	化学工業（総務担当）	それ以外	・当社の業績が悪く、賃金や賞与が上がる話はなく、賞与は下がる方向である。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・各ユーザーからの受注量がなかなか増加しない。依然として同じ状態が続いている。
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・東京・名古屋・大阪間が好調と聞いているが、九州での動きはあまり変化がない。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・株価、為替の不安定化が中小企業経営者の設備投資マインドを下げている、先が読めない。前向きな資金需要は出てきていない。
	経営コンサルタント	競争相手の様子	・同業者に尋ねても新しい仕事の増加はほとんどなく、現状維持がほとんどのようである。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・6月は、大雨で大変だった昨年と比べても、全般的に売上が下回っている状況である。前月が盛り上がったことを考えるとかなり厳しい状況であった。ただ、3月と比べるとあまり変化がない。
やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・6月に入って受注関係が少なく、特に夏場に向かって量販店向け商品が落ち込んでいる。雑貨系統の商品は種類が増えて数量が少なく、売上はダウンしている。夏場にかけてますます受注量が少なくなるのではないかと心配している。我々のところにはアベノミクスの効果はなく、円安で特にガス燃料の高騰が高止まっており、採算的に本当に苦しい状態である。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格が非常に厳しくなっている状態だ。そのなかで若干、瞬間的に受注量が増加してきている。その消化のために残業や徹夜が発生し、労務費が増大するという大変厳しい状況で、利益に大きく影響している。この状態がしばらく続く。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷主から預かっている荷物の動きが非常に悪くなっている。食料加工品、アパレル日用雑貨等全ての荷動きが悪くなっている。

	悪く なっている	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・取引先からの受注が減っている。一部受注が好調な品種があるが、量が少なく通常の売上が期待できない。
雇用 関連 (九州)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・派遣の注文も増えているが、正社員を前提とした紹介予定派遣や、人材紹介の注文も目立ってきている。また、派遣契約満了後、正社員にしたいという相談もある。正社員を雇用できる企業が少しずつではあるが、増えている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・今のところアベノミクス波及効果の期待感から、雇用に対しての前向きな姿勢が企業に現れている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・最近、建築関連の求人が増えてきているが、なかなか採用が決まらず経営に影響が出ている企業もある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・5月末までの新規求人数が今年の同月に比べて8.7%増加している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・内定がいくつかある求職者も多く、条件を比較し選べる環境になっている。採用活動を行っているなかで、求職者の選ぶ条件が福利厚生重視になっている。
		人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・求人数は、昨年とほとんど変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・株価に動きがある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新聞の求人広告量は、製造業の動きが弱くなり停滞気味である。一方、介護・福祉分野の人手不足はなかなか解消されない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・景気回復感から求人が増えそうだったが、業務を兼務したりするなどの対応が多く、良くなっているとは言えないようだ。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は、前年同月比でわずかに減少したのに対して、新規求職者は6か月連続減少している。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・建設業関係においては、公共事業等の増加により業績が上がっている動きもあるが、製造業においては、受注が減少しているとの企業もあり、全体的にみた場合、あまり変わらない状況である。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人の動きは落ち着いている。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・求人数が、前年同期比でわずかながらプラスに転じてきた。	
	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・求人依頼数は前年度を上回っている傾向は続いている。今後ある程度のデータサンプルが集まれば、景気上昇を裏付ける数字が現れる可能性はある。	
	やや悪く なっている	-	-	-
	悪く なっている	-	-	-